

令和7年度 諫早市立喜々津小学校 学校経営方針

諫早市立喜々津小学校

校長 薬師寺 結希

1 本校について

(学校)

- ・全校511名は市内4番目の規模。全学年3クラスに特別支援学級3クラス。
- ・一昨年に創立150周年を迎えた歴史ある学校で地域に親しまれている。
- ・広い校区とアクセスの良さで、住宅や店舗、営業所等が多い。

(保護者)

- ・本校出身者や縁のある方、外部からの移住された方と半々程度。
- ・時代の要請に応じた変化を受け入れる柔軟性がある。

(教職員)

- ・20代から60代まで満遍なく在籍。
- ・諫早市内だけでなく、長崎市、大村市、長与町からも通勤。
- ・子育て世代、介護世代も多く、理解と支え合いが大切。

(児童)

- ・まじめで落ち着いている
- ・素直で優しく、親切な行いができる。
- ・非行や陰湿ないじめ、暴力がない。すれたり虚勢を張ったりしない。
- ・主体性や積極性に物足りなさ。
- ・不登校や登校しぶりが多く、遅しさに課題。
- ・学力の二極化、家庭教育力の差、児童の特性やそれに伴うトラブルがある。

2 教育方針

(1) 長崎県教育方針

長崎県の教育は、国際交流の歴史が息づく郷土の伝統と文化を継承し、豊かな自然を守るとともに、命の尊さや個人の尊厳を重んじ、公共の精神を身に付け、我が国や世界の平和と発展に貢献していこうとする調和のとれた人間の育成をめざす。

学校・家庭及び地域住民は、「教育県長崎」の確立のため、自らの役割と責任を認識し、互いに手を携え、県民挙げて子どもたちを健やかに育むとともに、生涯にわたって学び続けることのできる社会の実現を図る。

とくに、教育に携わる者は、子どもたちに深い愛情を注ぎながら、その使命を自覚し、識見と指導力を高め、本県教育の充実と発展に努めなければならない。

(2) 諫早市教育方針

諫早市教育委員会は、市民の理解と協力のもとに、「教育のまち諫早」をめざす。

このため、人間尊重の精神を基調として、徳・知・体の調和のとれた教育を推進するとともに、生涯を通じて学び、家族・郷土を愛し、国家及び国際社会に貢献できる個性豊かな人間の育成を図る。

特に、教育にたずさわる者は、その使命感に徹し、自らの識見を高めるとともに、深い教育愛と豊かな人間性を基盤とするすぐれた指導力を身につけ、相和して本市教育の充実発展に努める。

(3) 学校教育方針

教育関係法令や学習指導要領及び、長崎県、諫早市の教育方針に基づき、次代を担う子どもたちを育成するという使命のもと、人との関わりの中で「主体的に考え、判断し、行動しようとする力」の基盤を育てる。

3 学校教育目標

主体的に考え、判断し、行動しようとする児童の育成

～「未来を生き抜く力」を伸ばすために～

めざす児童像

かしこい子 … 自ら深く考え、共に学び合う子ども
やさしい子 … みんな仲良く、共に支え合う子ども
たくましい子 … 自らきたえ、共にみがき合う子ども

めざす学校像

明るく生き生きした学校
笑顔と挨拶があふれる学校
認め合い、支え合う学校
地域とともにある学校

めざす教職員像

子どもに寄り添う教師
子どもの伸びを支える教師
同僚と共働し高め合う教師
保護者、地域とつながる教師

4 目標達成に向けて

(1) かしこく・・・自ら深く考え、共に学び合う子ども

子どもに育てたい力 身に付けさせたい資質、能力

- ◎学びに向かう姿勢、自己決定力
- ◎思考のもとになる基礎学力

努力事項

○支持的風土が根底にある学級づくりに努める。

- ① 安心して学習に取り組むことができるように、学習の流れに見通しを持たせる。
- ② 相手を意識した話し方・聞き方を身に付けさせる。

○進んで考え、学び合う力を育てる。

- ① 学習計画や学習進度、達成度を示し、自己決定や自己評価の場を作る。
- ② 習熟度別授業やA Iドリルの活用し、一人ひとりの底上げをする。

○協働的な学びの場を計画的に設ける。

- ① 発表や学習ノート等、よいモデルをお互いに開き合う。
- ② 個々の考えの共有、対話のツールとして、学習アプリやICT 機器を積極的に活用する。

(2) やさしく・・・仲間を知り、共に支え合う子ども

子どもに育てたい力 身に付けさせたい資質、能力

◎協働とリーダーシップの育成

◎違いを認め、自他を大切にする心

努力事項

○自他を大切にすることができる心を育てる。

① 賞賛や価値づけ、成功体験を通して、自己肯定感を高める。

② 仲間のよさや頑張りを紹介する場面を設け、新たな一面に気付かせる。

○仲間と協力し、共通の目標に向かって取り組ませる。

① 一人一人に役割を与え、責任感と自己有用感を育てる。

② 仲間と協力して主体的に活動する場を仕組み、企画・運営を任せる。

○仲間や学級、社会に関心を持ち、自分事として捉える。

① ソーシャルスキルトレーニングで適切な自己表現の仕方や他者理解を知る。

② 自分はどうか、どうするという問いかけを習慣づける。

(3) たくましく・・・自らきたえ、共にみがき合う子ども

子どもに育てたい力 身に付けさせたい資質、能力

◎自らの課題を知り、挑戦する気力

◎失敗や困難から立ち直る柔軟な心

努力事項

○体育の授業や体育的な活動を充実させ、体力づくりに努める。

① 固定施設や遊具、器具を使った運動を取り入れ、運動を習慣づける。

② 自分に合った種目や課題、目標を設定し、主体的かつ粘り強く取り組ませる。

○互いに刺激を与えながら課題に挑戦し、向上心を高める。

① スモールステップで課題を提示し、達成できる回数や場を増やす。

② 同学年での体育授業を仕組み、競い合い、励まし合いながら技能や体力を高める。

○レジリエンスを高める。

① 結果ではなく、始めたことや粘り強く取り組んだことを評価し、価値づけする。

② 心の相談員やＳＣと連携し、子どもたちの悩みやストレスに寄り添い、支える。

(4) 特別支援教育の充実

子どもに育てたい力 身に付けさせたい資質、能力

◎共に学び、成長する仲間という意識

◎自他を尊重できる視点

努力事項

○児童の特性を理解し、適切な支援について深く学ぶ。

① 子どもの情報を保護者や職員間で共有し、指導に適切にあたる。

② 児童の実態に合わせて、スモールステップで支援する。

○ユニバーサルデザインの視点による授業づくりを行う。

- ⑧ 言語環境・教室環境を整える。
- ⑧ 児童の実態に合わせて、スモールステップで支援する。

○児童同士が助け合うことができる集団づくり、環境づくりを行う。

- ⑧ 教師が合理的な配慮や対応のモデルを示す。
- ⑧ 「みんなが安心して学べる環境」を子どもと一緒につくり上げる。

5 子どもの育ちを支える

(1) 信頼関係の構築

- ・子どもの行動をよく見て、言葉に耳を傾ける。
- ・会話を楽しんだり、一緒に行動したり、遊んだりする。
- ・1人の人格を持った人として向き合い、自分の思いの通りに動かそうとしない。

(2) 安心安全な環境の整備

- ・教室や廊下等、校内の整理と整備に努め、危険を取り除く。
- ・目的意識を持った避難訓練やケーススタディを通して、危機回避能力を高める。
- ・報連相を怠らず、ヒヤリハットは積極的に公表し、改善につなげる。

(3) 保護者・地域との連携

- ・積極的に情報発信を行い、学校教育への理解と信頼を得る。
- ・学校外の人財を意図的・計画的に活用し、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。
- ・学校と家庭は子どもの成長と自立のために同じ方向を見ていることを自覚する。

6 私たち自身のために

(1) 服務規律と不祥事防止

- ・アンガーマネジメント、子ども一人一人の人権を大事にする。
「子どものため < 感情のはけ口」になっていないか。
- ・「問われる責任」「及ばず影響」「ぬぐえぬ代償」
今やろうとしていることは、人生をかけるほどのことか

(2) 働きがいがある（働きやすい）学校づくり

- ・誰もが活躍の場がある職場。
活躍とは人前で目立つことばかりではない。
- ・同僚性を高め、一人で抱え込まない。
「こまつな」が大事。「ちんげんさい」はダメ。

(3) ワークライフバランス

- ・自分や家族を大切にできる職場づくり
幸せは「仕事」「家庭」「健康」「プラスαの楽しみ」
- ・自分が休んでもうまく回る学校、学級づくり
チーム担任制を前提とした学年経営、指導体制づくり